

# 「国鉄改革は失敗…十年後に再編を



87. 2. 27

No. 2488

国鉄千葉動力車労働組合  
千葉市要町二一八（動力車会館）  
（鉄電）二九三五（六ノ公衆）〇四七二（二二）七二〇七

## 2・28集会の圧倒的に成功打で 中曽根の痛打を

日帝・中曽根が、政治生命の全体重をかけ推し進めた国鉄分割・民営化攻撃も、国鉄労働運動を解体するという当初の目的が動労千葉・国労の戦闘的労働者を中心とする断固とした闘いにより大破産し、中曽根自身の首を自分で締める結果になってきた。この大きな勝利の地平にたち、破産に破産を重ねる分割・民営化を粉碎せよ。

### 大破産を吐露

政府・財界・国鉄当局の間で、新会社の利権をめぐるトップ人事が揺れ動く中で、中曽根ブレインの中心人物であり、財界の黒幕である伊藤忠顧問・瀬島竜三が、「国鉄改革は失敗した。十年後に識者が現れ、再編の必要がある」（二月十八日付毎日）と溜息まじりに語り、中曽根政府の中核から国鉄分割・民営化が大破産したことが吐露された。

### 十年単位の大失敗

この発言の中で特に注目しなければならぬのは「十年後に識者が現れ…」

### 難産…多難な前途を象徴

—相…財界人のシリ込み—  
D 瀬島竜三氏が「国鉄改革は失敗した。十年後に識者が現れ、再編の必要がある」とため息をついたという話は象徴的だよ。本人は否定してない。  
E 次社長ポストだが、杉浦氏は自民党運輸部が、住田氏は行革派が推す形になった。状況が不利。  
F 杉浦氏サイ、衰え浮きかき、予見の威光衰え浮きかき、これに雇用対策がうまくいくとPRに努めたが、反対陣営から「定期割れまで出るようでは国労や千葉動労の闘士の大半が新会社に入ってくる。労政には問題があった」としゅうされ、巻き返しては成らなかった。

### 失敗につぐ失敗を重ね 喘ぐ支配階級！

さらに、今回の失敗で当惑しているのは資本家の連中である。同一企業の中で各種の労働組合が存在し、その組合間で激しい主導権争いが展開されるといのは、資本家にとっては今まで経験のないことである。労働組合を使って労働者を支配するという今まで関係が崩れるということであり、特に、全労働者の憎しみの的である動労革マルの存在をめぐることは、資本家をも巻きこんだ激しい闘いになるということだ。  
「十年」規模の大失敗に喘ぐ政府・財界・当局に「2・28国鉄労働者全国交流集会」の圧倒的成功をもって痛打を浴びせ、分割・民営化を粉碎せよ。

### 当惑する資本家

この大失敗により、中曽根自身も窮地にたたされたということであり、中曽根打倒のチャンスが到来したのだ。  
また、杉浦は、今回の失敗で、東日本社長の座から清算事業団へ回される結果となった。「国労や千葉動労の闘士の大半が新会社に入る」という理由からだ。